

ふりかえり会議（事後）コーディネーター意見書

- 事業名：チャイルドライン24
- コーディネーター氏名（所属）：山本 康史（ハローボランティア・ネットワークみえ）
- ふりかえり会議開催年月日：平成18年4月10日

1. 協働の状況について

（協働の妥当性・パートナー選択・資源配分と責任分担・意思決定のしくみと対等性の視点から）
 事業そのものについて、担当者レベルでは取り組みが進んできているが、その背景にある社会的課題、この事業の先にある次の事業など、より戦略的な観点の共有がなされていないことに民間側の不満感が感じられた。

2. 実施事業の状況について

（戦略性（計画性）・事業の継続性と柔軟性・情報公開の視点から）
 この事業が継続する事＝子供たちのSOSが無くなることなので、将来無くなるのが理想だろうが、それは長期的視点。もう少し中期的（数年～10年）というスパンでの継続性が担保されているとは言い難い。単年度でぶつ切りの協働事業など通常あり得ず、継続するだけの価値があるからこそ評価・採用されている事業なので、もう少し長いスパンで安定した活動が可能になるだけの用意を、行政も民間もともに整える努力が必要になっていると思う。

3. 事業実施体制について

（資源配分と責任分担・意思決定のしくみと対等性・事業の継続性と柔軟性・情報公開の視点から）
 事業実施途中で発生する、1部署では解決できない課題に対する対応に不十分さを感じる。たしかに担当する主幹部署を決めるのは必要なことですが、市民にとって、協働しているのは「三重県〇〇部△△室」ではなく「三重県」なので、1部署の取り組みの枠外に問題が波及することも考えられる。（むしろそういうボーダー内で収まる活動なら市民との協働などしなくても県主導でいくらでもできるはず）この事業に限ったことではなく、協働事業全体について同じ事が言えると思うが、県庁内のボーダーを超える取り組みについてどのように判断・対応するのか、県庁内側に一定のルールを作っておくべきではないか？ と感じる。

4. 活動領域について

（資源配分と責任分担の視点から）

現状の活動領域	目指すべき活動領域
B 3	B 2. 5

公の活動領域

					私的 領域 (市場)
行政が担う公			県民が担う公		
A	B 1	B 2	B 3	C	

公の活動領域の考え方

- Aの領域：行政だけで担っている領域
- Bの領域：県民と行政が共に担っている領域
 - B 1：行政が主となり県民が参加参画協力する領域
 - B 2：県民と行政がそれぞれ役割分担する領域
 - B 3：県民が主となり行政が支援している領域
- Cの領域：県民だけで担っている領域

ふりかえり会議（事後）コーディネーター意見書

■ 事業名：チャイルドライン24

■ コーディネーター氏名（所属）：中盛 汀（W. T. Aまちづくりセンター）

■ ふりかえり会議開催年月日：平成18年4月10日

1. 協働の状況について

（協働の妥当性・パートナー選択・資源配分と責任分担・意思決定のしくみと対等性の視点から）
中間ふりかえりのあとからは、かなりうまく進めてくださっているという印象を感じた。

ただ、問題点としてはそのまま残されている気もした。

予算のあり方にしても、今回の場合の「人件費」についての考え方が、関わっている行政サイドでも十分理解できていない気がする。協働事業として取り組んでいるというこの期間の意味、また、共同事業となった意味などがしっかりと浸透していないようなので、今一度、両者でしっかりと確認を望みます。

2. 実施事業の状況について

（戦略性（計画性）・事業の継続性と柔軟性・情報公開の視点から）

毎回、しっかりと実施の報告等もまとめられており、NPOサイドには十分役割を果たしてもらっていると感じた。事業の継続性の面では、最初にこの事業が採択された段階での「期限」がそのまま残っており、現状に対してどうなのか、などの見直しが必要ではないか。

ただ、事業完了期と捕らえるのか、現状を把握した上でどうなのかを考えると、3年という枠にとらわれてしまっていることでこの事業を終えていいのかどうか、協議しないといけないと感じる。

3. 事業実施体制について

（資源配分と責任分担・意思決定のしくみと対等性・事業の継続性と柔軟性・情報公開の視点から）
受け手の数も増え、また、実施拠点も行政サイドの協力によって増えたという報告は大変ありがたい。が、細かい点においてはまだまだ両方で納得できていない部分などもあるので、できればじっくりと時間をとって話をする機会が必要。

また、提言などにつなげていく部分の整理も出てくると思うので、そのあたりで担当部署をはじめとし、どのように三重県にフィードバックしていくのか、それも含めた検討を望みます。

4. 活動領域について

(資源配分と責任分担の観点から)

現状の活動領域	目指すべき活動領域
B 3	もうしばらくはB 2 に向かうことが望ましいと感じた。

公の活動領域

	/				私的 領域 (市場)
行政が担う公	B 1	B 2	県民が担う公	C	
A			B 3		

公の活動領域の考え方

Aの領域：行政だけで担っている領域

Bの領域：県民と行政が共に担っている領域

B 1：行政が主となり県民が参加参画協力する領域

B 2：県民と行政がそれぞれ役割分担する領域

B 3：県民が主となり行政が支援している領域

Cの領域：県民だけで担っている領域